

平成30年度 市岡東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

3 「大阪市中学生3年生統一テスト」の調査の目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成30年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

4 「大阪市英語力調査（英検IBA）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟課程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

平成30年度 市岡東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)					平均無解答率(%)				
実施月日			国語A	国語B	数学A	数学B	理 科	国語A	国語B	数学A	数学B	理 科
3 年	学校	91	69	57	55	37	56	4.8	4.7	6.5	21.1	7.5
	大阪市	—	74	58	63	44	63	3.6	4.1	3.7	14.9	5.9
4月17日	全国	—	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	3.1	3.0	3.3	12.6	5.0

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
実施月日			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	89	46.7	42.6	52.2	49.5	50.6	20.5	5.0	11.3	9.2	4.5
	大阪市	—	51.6	48.1	56.7	56.5	56.2	16.9	4.6	10.5	7.2	3.8
9月6日	大阪府	—	53.0	49.5	58.9	58.0	58.5	16.0	4.5	10.3	7.3	3.6

3 大阪市中学校3年生統一テスト

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)				
実施月日			国語	社会	数学	理科	英語
3 年	学校	87	56.9	56.1	54.9	52.0	56.0
10月4日	大阪市	—	60.2	58.8	59.2	57.1	60.7

4 大阪市英語力調査（英検IBA）

学年		生徒数 (人)	語い 熟語 文法 (%)	読解 (%)	リスニング (%)	英検3級 LV以上 (%)	英検4級 LV以上 (%)	英検5級 LV以上 (%)
実施月日								
3 年	学校	84	58.5	49.3	50.5	42.9	—	—
10月29日	大阪市	—	62.6	52.2	53.2	52.8	—	—
2 年	学校	71	71.4	56.2	62.1	—	69.0	—
10月29日	大阪市	—	71.2	58.5	65.0	—	69.2	—
1 年	学校	78	57.7	56.7	62.8	—	—	82.1
10月29日	大阪市	—	56.5	53.2	63.3	—	—	79.4

平成30年度 市岡東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

大阪市英語力調査(英検IBA)について

【成果と課題】

[1 年]

大阪市英語力調査において、語彙・熟語・文法、読解、英検5級LV以上の割合で大阪市の平均を上回る結果となった。日頃の授業では、音読指導を重点的に行っており、読解にある程度の成果が見られた。今後の課題として、大阪市の平均を下回ったリスニングに注力する必要がある。

[2 年]

英検IBAの成果として、「語い」の問題が大阪市の平均と比較すると高くなっている。これは、日常的に行っている単語テストやその結果に対してのやり直しを課題とし、復習させ続けた成果といえる。読解やリスニングについても小テストや反復するための課題をあたえ、生徒の学力の向上につなげる。

[3 年]

Readingスコアが平均よりも特に低い。英検3級程度レベル以上の生徒が大阪市では52.8%なのに対して、本校では42.9%と9.9%も低くなった。

【今後に向けて】

[1 年]

1年生の現時点で、英検5級LV以上の生徒の割合が大阪市の平均を上回っているという成果が見られたのに対して、リスニングは大阪市の平均を下回っている。4技能の能力にバラつき見られる結果を受け止め、先の教育改革を見据えた4技能を高めるバランスの取れた授業を展開し、生徒の英語力向上に努めたい。

[2 年]

英検IBAの結果を受けて、日常から英語の音声に注意して聞くこと集中して聞くことを意識させて取り組ませるなど4技能をバランスよく育成していく。

[3 年]

生徒の学力を向上させるために、教材を工夫して興味、関心を引き出す。また、家庭学習用の定着を図る。